

# 一般質問通告書

令和 8年 5月27日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 8 番 廣部 真造

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁  
2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号1) 発言事項	高島市の文化ホールの在り方について
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
<p>現在、市内には今津町に高島市民会館、安曇川町に藤樹の里文化芸術会館、高島にガリバーホールがあります。いずれも、経年に伴う設備改修や補修をされ、維持管理をされています。</p> <p>そもそも、文化ホールの設置目的は何なのでしょう。人々が集まる単なる場所や箱ではないはずであります。高島市の最上位計画である第2次高島市総合計画の『せせらぐ』から見てみます。『誰もが住みたくなる生活環境を整えます』という施策項目の中で示されている『方針3：文化による人や地域のつながりづくりを推進します』とあります。課題が3つ整理されています。</p> <p>○多くの市民が文化活動による自己実現や生きがいづくりに取り組むことで、人と人との交流を促進する必要があります。</p> <p>○文化活動による感動や達成感、一体感などの体験を通して、人や地域のつながりづくりを推進する必要があります。</p>	

○地域社会が変化していく中で、伝統行事をはじめとする多様な文化財を地域全体で継承していく取り組みを進める必要があります。

これらの課題解決の為に3つの方針が示されています。

### 1. 特色ある地域文化の振興

市民の知恵や生活習慣の中で、育まれてきた地域の伝統や文化を後世に伝えるとともに、文化芸術活動への支援を行い、生きがいつくりと多様な人とのつながりの中で暮らせる地域をつくります。

### 2. 市民の参画と協働による芸術文化の振興

優れた芸術文化にふれる機会を提供するとともに、市民の参画と協働による芸術文化活動の支援を行い、人と人のつながりを生かした個性ある芸術文化の振興を図ります。

### 3. 地域に伝わる文化財の継承

地域に残る伝統行事をはじめとする多様な文化財を、社会の変化に対応しながら調査、保存し、地域全体で継承します。

前述の実現の為に毎年、ホール事業、展示事業、教室事業、講座等が開催されています。市の主催事業や共催事業、市民提案による事業、実行委員会を補助する事業など事業方法は様々です。市民が芸術や文化に触れ、楽しみ興味を持つ機会として実施されているものと考えます。

事業内容は30年近く継続されてきたものなど、長年に亘って実施されているものも多くあります。その一方で、新規の事業が少なく感じます。

また、3つの文化ホール施設の維持管理費は今後も修繕費用の発生などが予想されます。文化ホール事業自体は、その収益性については極めて低いものです。もとより、収益性を追求していないものと考えられます。

高島市では、公共施設再編計画が策定されており、公共施設を概ね半減することを計画しています。公共施設再編計画ではそれぞれの施設ごとに今後の在り方について示されています。廃止するもの、統合するもの、譲渡するものなど、将来のあり方を示しています。

ところが、3つの文化ホールについては、今後の在り方については明確には示されておりません。それは、なぜなのでしょう。高島市が市民に対して芸術文化活動を通じて求める結果が明確ではない事が理由であると考えます。文化ホール事業の収益をその指標とするのか。文化芸術活動に参加者アンケートによる満足度を指標とするのか。その他の指標を設けて事業評価をしていくのか。これらの事が明確でない事が、将来の在り方について明記できていない理由であると考えます。

全国の自治体の事例を見てみますと、文化芸術を地域住民のためだけではなく、広く各地から人気を獲得している施設とそこでの事業があります。一例を紹介しますと、石川県七尾市旧中島町に能登演劇堂があります。能登演劇堂は、舞台と能登の自然が一体化する世界的にも極めて珍しい舞台機構を持つ「演劇専用ホール」です。舞台奥の大扉を開くと、背後に広がる能登の山々や広大な敷地（舞台庭）がそのままステージ背景に変わるものです。名優・故仲代達矢氏が主宰する「無名塾」との深い交流から生まれ、人口約8,000人（当時）の旧中島町が演劇によるまちづくりを目指して1995年に開館しました。現在は、指定管理者である公益財団法人演劇のまち振興事業団による運営がされています。運営費用の捻出にも、チケット収入や民間の協賛金（賛助会員費）、ふるさと納税の返礼品として観劇チケットを活用しています。市と劇場が連携して外部の財源を確保する取り組みも行われています。この演劇堂は単なる公共の箱ではなく、地域住民の誇りとして存在するものとなっています。市民がエキストラとして俳優たちと同じ舞台に立ち拍手を浴びる。本当にかげがえのない経験となり喜んでおられます。

本市においては、今後の5年から10年をかけてでも文化ホール事業の在り方を明確にする必要があると考えます。そこで、以下の通り質問します。

- ① 公共施設再編計画において、将来の在り方をどのような根拠で決定する考えなのか
- ② 指定管理者制度を活用して新たな事業展開による効果を検証してはどうか
- ③ 音響効果が極めて高く評価されるガリバーホールを高島市民の誇りとなるような事業展開をしてはどうか